

日本拳法 新型コロナウイルス感染症対応限定 試合様式

1. 感染予防対策

選手 面～フェイスシールド（面内部装着）、またはマスクを着用する。

上記フェイスシールド、万一の危険性（破損等で眼部負傷）を考慮し接触・組打ち技に特に留意し規則の運用を図る（組打ち・接触時間の制限～下記記載）

- ・ 審判員 装備フェイスシールド（眼鏡式又は鼻部にて固定）は 3 審とも同じ物とする。
- ・ 会場へは、役員・選手以外の上場は禁止する。
 - ※各団体の監督・代表者等の上場は主催者の判断によるものとする。
- ・ 会場内では来場者（選手・役員・審判）全員がマスクを着用し静粛にする。
 - 必要以上の会話は控える事（飛沫感染予防・ソーシャルディスタンディング）
- ・ 試合場外でのセコンド等の声援・アドバイスは一切禁止する。（飛沫感染予防）
- ・ 来場者（選手・役員・審判）全員の感染確認調査票提出（事前記載）ならびに当日の検温を実施する。
- ・ 各都道府県の「新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」に準ずること。

※但し、大学連盟主催大会ではフェイスシールドは使用不可

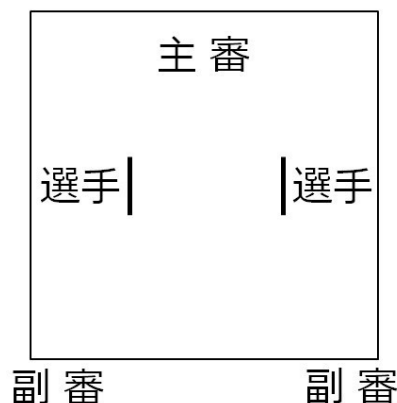
2. 競技規則（新型コロナウイルス感染症対応限定規則）

- ・ 選手へ事前に笛・口頭での宣告に直ちに從う事を周知徹底する。（宣告音量抑制の為）
- ・ 接触時間の短縮をはかる～組打ち技の時間短縮 3 秒以内目安。
- ・ 無声の気合でも技の充実により決め（一本）となる事を再認識の上判断する事。
- ・ 一本の判定基準（撃力）に関しては、通常時と同様とする。
- ・ 主審の宣告音声の抑制。（選手にのみ判別できる程度）
- ・ 膠着状態（組打ち・寝技）解消又は危険技防止の際でも選手に接触せずに、主審の「待て」の宣告・副審の笛で制止する。

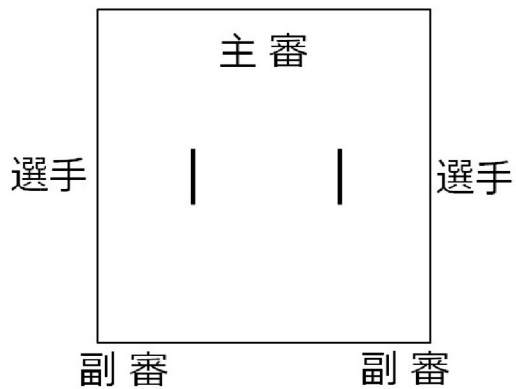
※選手・各審判の特別所作（ソーシャルディスタンシング）次項図参照

試合中断時（反則等で審判合議）、選手・審判の立ち位置

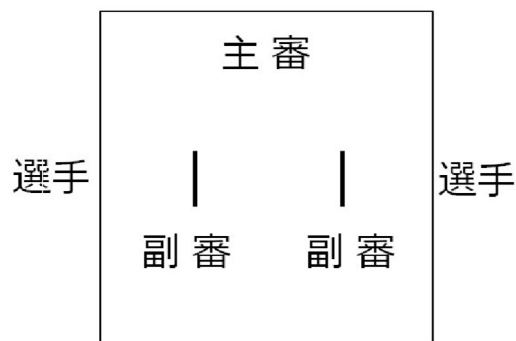
① 主審「待て」と宣告 ⇒ 選手は紅白の仕切り線



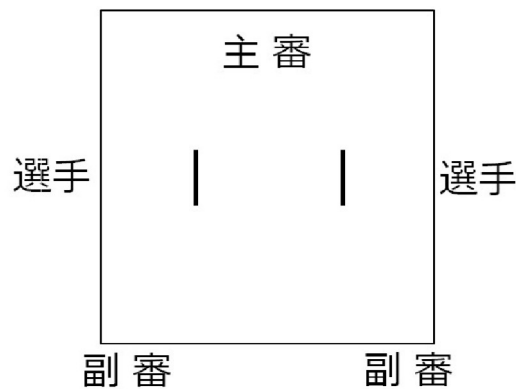
② 主審「選手場外へ」と指示 ⇒ 選手入場位置（場外線外側）



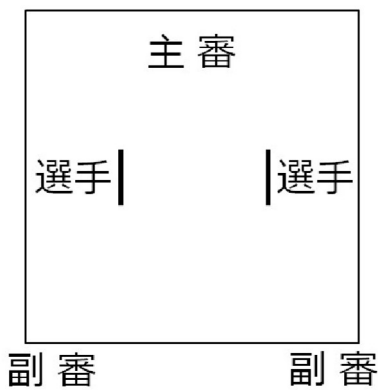
③ 主審「副審」と口頭と動作で呼び寄せる ⇒ 副審紅白仕切り線外



④ 短時間での合議終了 ⇒ 副審定位置へ速やかに戻る



⑤ 主審「選手入場」と指示⇒選手仕切り線



⑥ 主審合議結果「宣告」の後「続けて」で試合再開